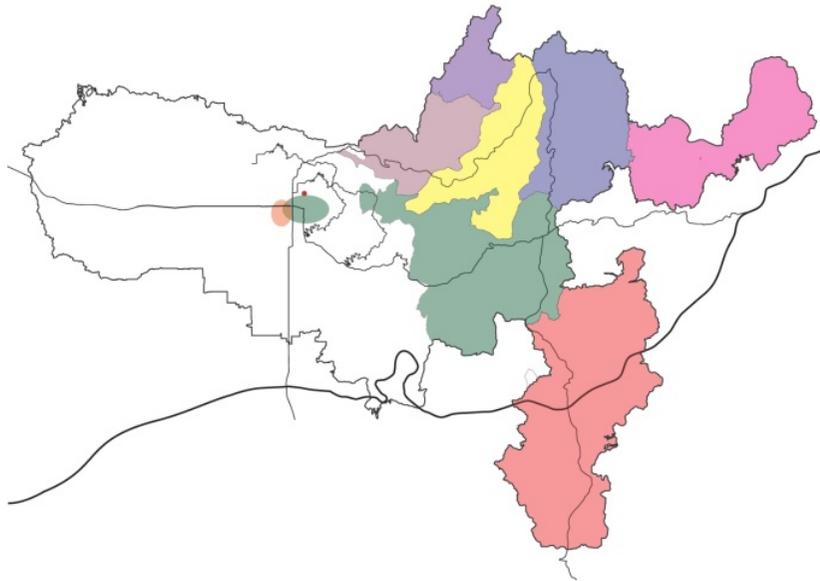


# 柳生の歴史と観光を愉しむ



2021年1月 柳生観光協会

事務局長 黒田 篤史

# 1. 柳生の里の由来？



## 柳生の地名の由来

柳の大木が育つ地。柳の大木の切り株の上で相撲をとったと言われる伝説の地。**楊生・夜岐布・夜市布・也市布・養父**とも書きます。  
例)隣の大柳生地区では「夜支布(やぎゅう)山口神社」があります。

## 柳生氏とは

菅原氏より出て、菅原永家、その末裔に大膳永家(だいぜんながいえ)

## 柳生氏の所領は？

神戸四箇郷(かんべしかご):大柳生・坂原・小柳生・邑地の四庄

885年 関白藤原基経の所領(荘園)

1038年 春日大社に寄進

春日大社の4神官がそれぞれを治めており、

その1人である大膳永家が「小柳生」を管理、「柳生」姓を名乗る

## 2. 柳の森～



柳の森は、柳生の地名の元になった場所で、大昔、ここに誰かが杖を立てておいたところ、やがてそれが柳の大木となりそこから柳生という地名になったという伝説の場所で、「柳の森」と呼ばれるようになりました。

「柳生」は大化の改新の頃には「楊生郷」という字が使われていましたが、南北朝時代に後醍醐天皇に味方して敗れ、建武の中興で復活して、以降、「楊生」から「柳生」に変わったと考えられています。



### 3. 古墳時代:柳生下塚古墳



奈良県最北端の古墳です。茶畑の中に横穴式石室が開口しており、玄室は高さ2.7m、奥行き3.6m、幅1.8mあります。

築造は古墳時代後期(7世紀頃)で、**柳生宗厳がこの塚にあった刳拔式家型石棺を取り出して手水鉢にした**と柳生家の家譜である『玉栄拾遺』に記録があります。



※個人宅の敷地内にありますので、見学の際は事前調整が必要です。4

## 4. 原始的な神道文化を感じさせる「天乃石立神社」



柳生町の戸岩谷にある神社で本殿を持たず四つの巨石が御神体として崇められています。伝承では、手力雄命(たちからおのみこと)が、天岩戸の扉を引き開けた時に、力余って、ここまで飛んで来た岩戸の扉であるという伝説があります。

**延長5年(927年)にまとめられた「延喜式神名帳」**(全国の神社2861社一覧)に、天乃石立神社が掲載されています。※昭和28年に拝殿の横にある「きんちゃく岩」が大雨で崩れた後、天照大姫命(日向神社)として加え祀っている。崩れる前は岩の下に鳥居がありました。



## 5. 奈良市東部山間エリアの特徴とは？

田原、大柳生、柳生、東里、狭川、月ヶ瀬、都祁の7地区から形成。

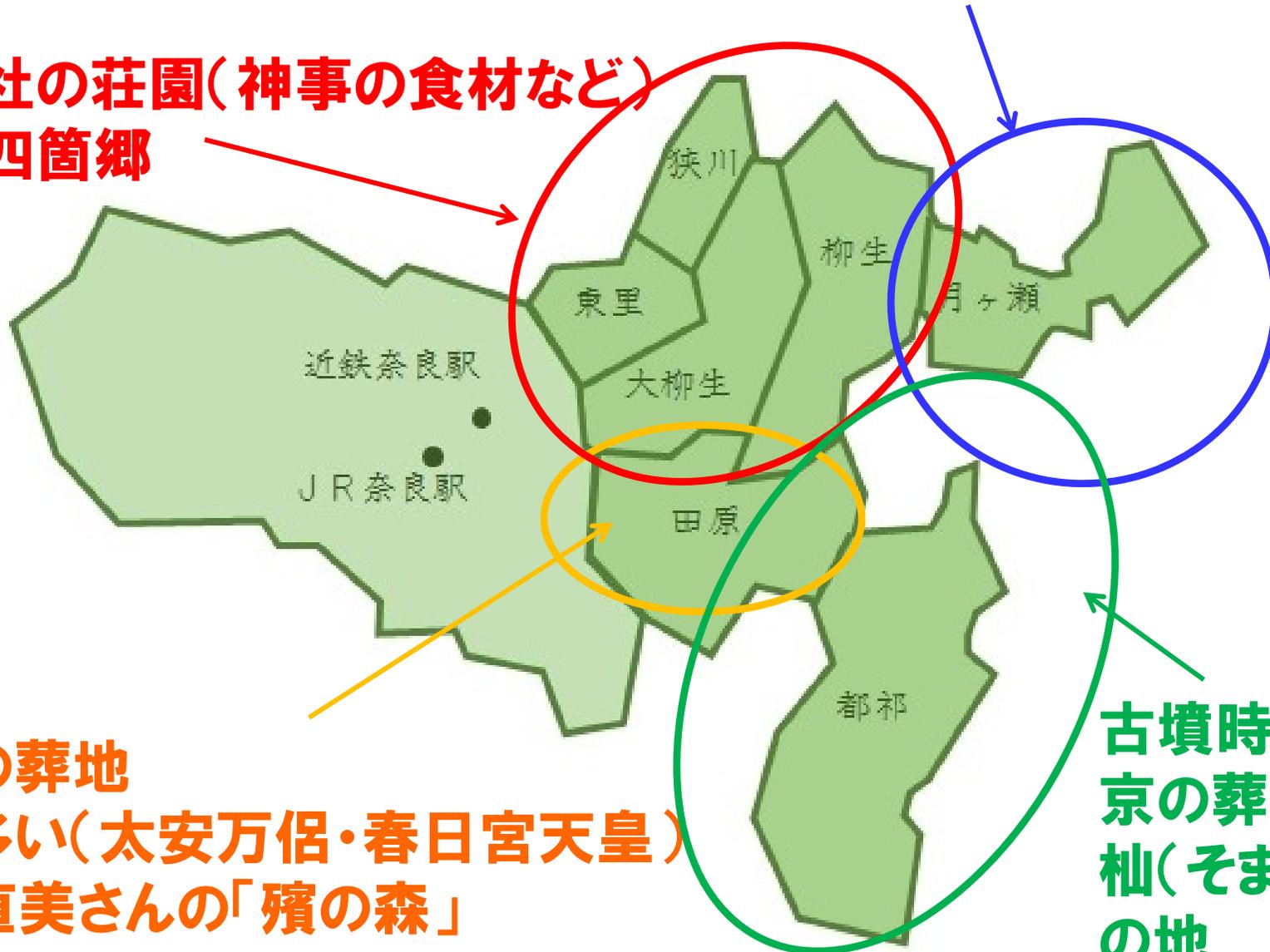
面積は奈良市全体の約45%、

人口は奈良市約35万人のうち9,936人

大安寺の荘園・杣(木材供給)

春日大社の荘園(神事の食材など)

※神戸四箇郷



平城京の葬地

歌人が多い(太安万侶・春日宮天皇)

※河瀬直美さんの「殯の森」

古墳時代・平城  
京の葬地  
杣(そま)・氷室  
の地

# 6. 柳生の家系図と家紋

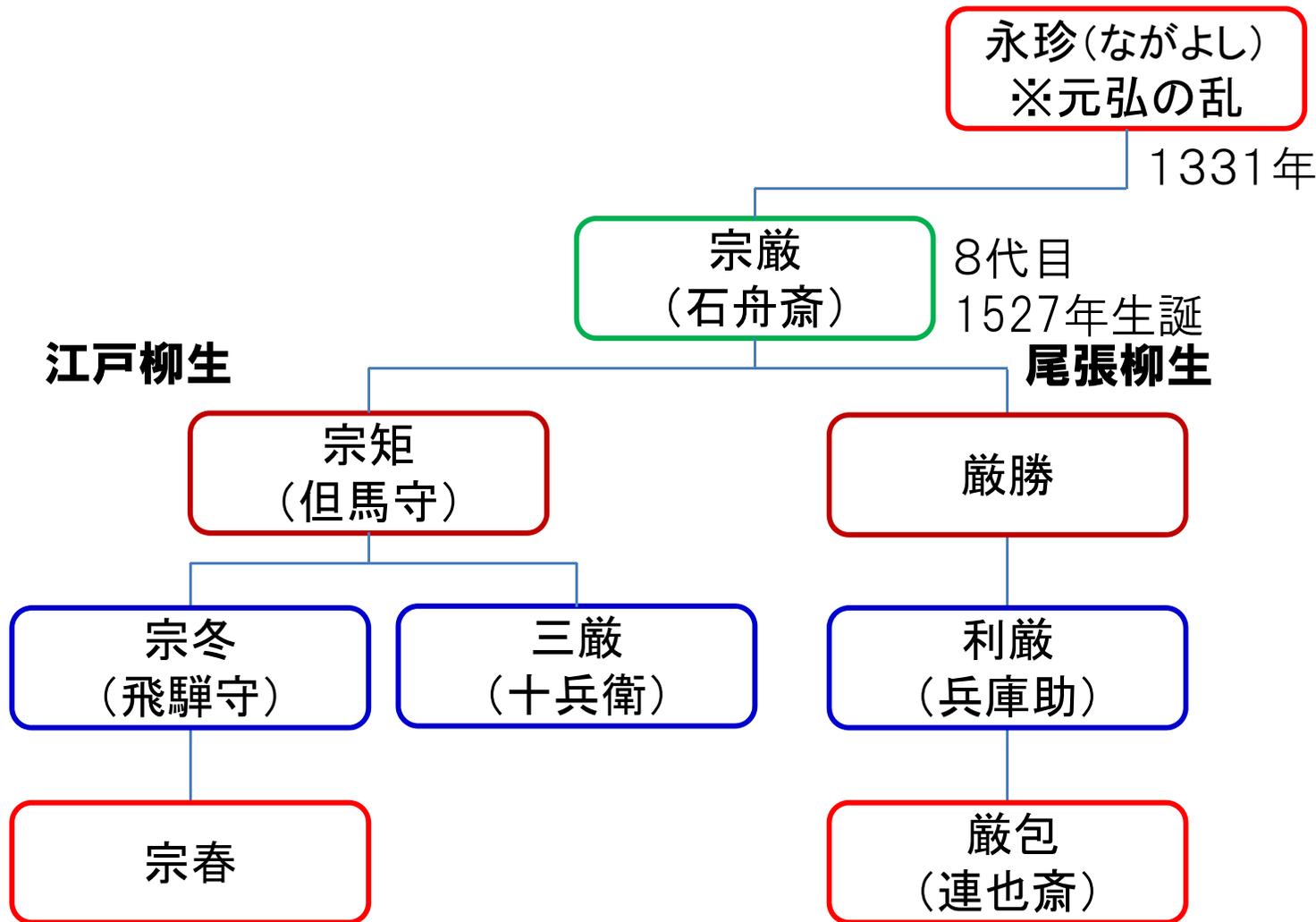


後醍醐天皇の支援をした永珍。柳生新陰流生家の宗厳。家紋は2つ。

地楡(吾亦紅=われもこう)に雀



二蓋笠

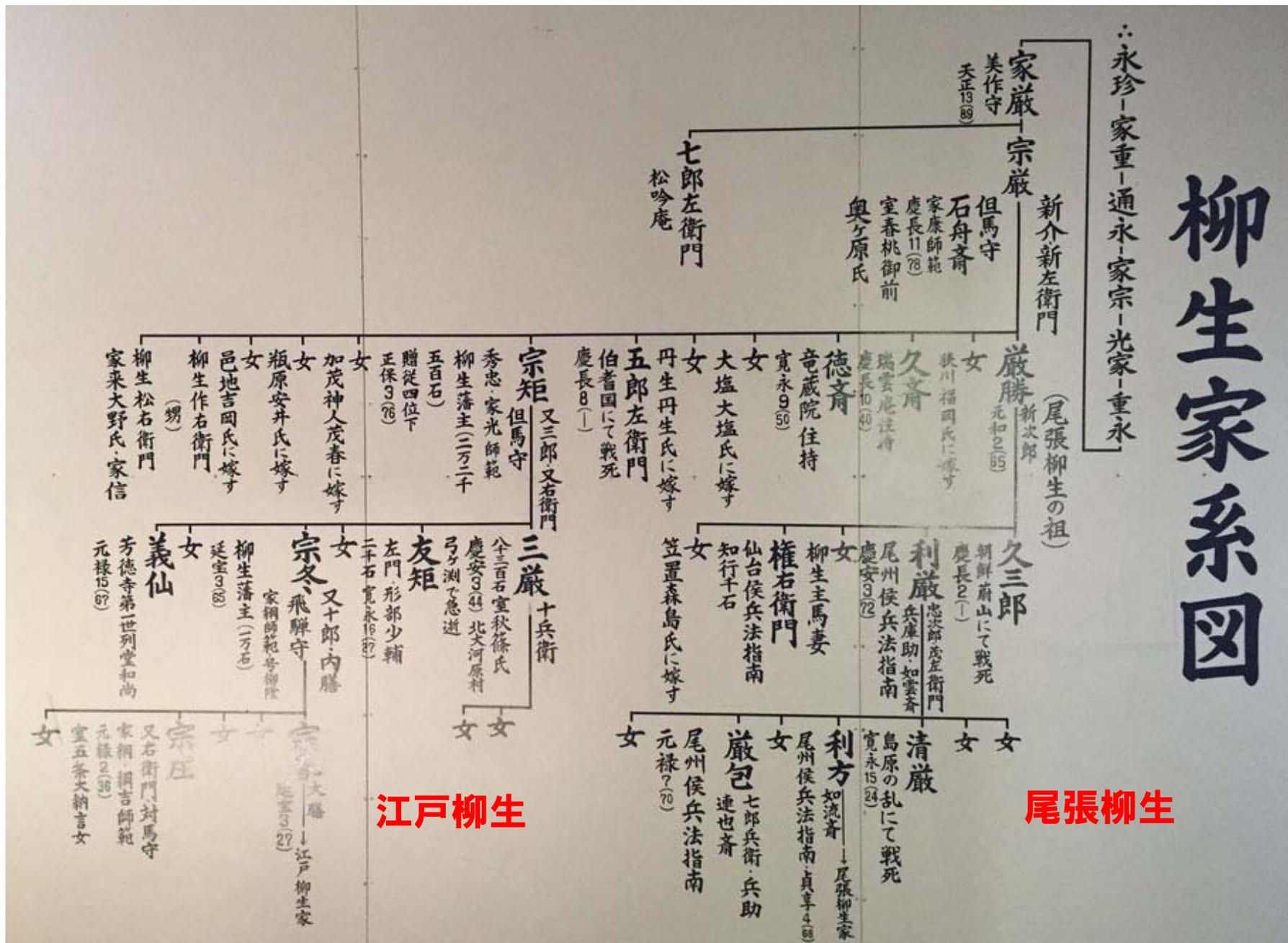


津和野城主であった坂崎出羽守直盛の家紋で、大坂夏の陣に端を発した徳川家康の孫娘千姫の嫁入りに千姫を奪う計画を立てたとして処刑される際、宗矩の説得に応じ切腹。宗矩はその家紋を引き受けたとされています。

# 7. 柳生家家系図(詳細)



## 柳生家家系図



旧柳生藩家老屋敷展示

## 8. 疱瘡地蔵と徳政碑文～室町時代中期～



室町時代中期に起きた正長の土一揆(1427年)にまつわる遺物。  
日本で唯一残っているため教科書や入試試験にもでてきます。



「正長元年ヨリ サキ者カンへ四カン カウニ  
ヲ井メアル ヘカラス」

「正長元年より以前の、神戸(かんべ)四箇  
郷における負債は一切消滅した」

※鎌倉時代後期 元応元年 1319年の銘  
※疱瘡とは「天然痘」。感染症の事。

疱瘡地蔵

# 参考:テスト例 ～高校・大学入試で採用～



## ◆設問

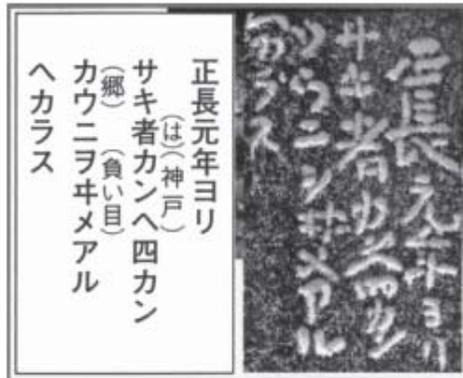
問4 下線部cについて、次の1、2の問いに答えなさい。

- 1 資料②のような、「おきて」をもつ村のことを何と  
いいますか。漢字1字で答えなさい。
- 2 写真③は、正長元年徳政碑文です。これが残される  
きっかけとなった土一揆に関する資料③を読み、  
資料③の下線部が破壊された理由を答えなさい。

資料②

●村のおきて  
1489年11月4日  
近江(滋賀県)今堀郷のおきて  
一、よそ者は、身元保証人がなければ村内に住まわせてはならない。  
一、村の共有地と私有地の境界の争いは、金で解決しなさい。  
一、堀から東には、屋敷をつくってはならない。  
(『今堀日吉神社文書』より、一部要約)

写真③ 徳政碑文



資料③

正長元年9月、天下の土民が蜂起した。「徳政」を口にしなが、酒屋・土倉・寺院などを破壊して、品物を自由にうばい、借用の証文をすべて破いてしまった。管領は対応策をたてている。亡国の原因としてこれ以上のものはない。日本が始まって以来、土民が立ち上がったのはこれが初めてだ。  
(大乘院日記目録)

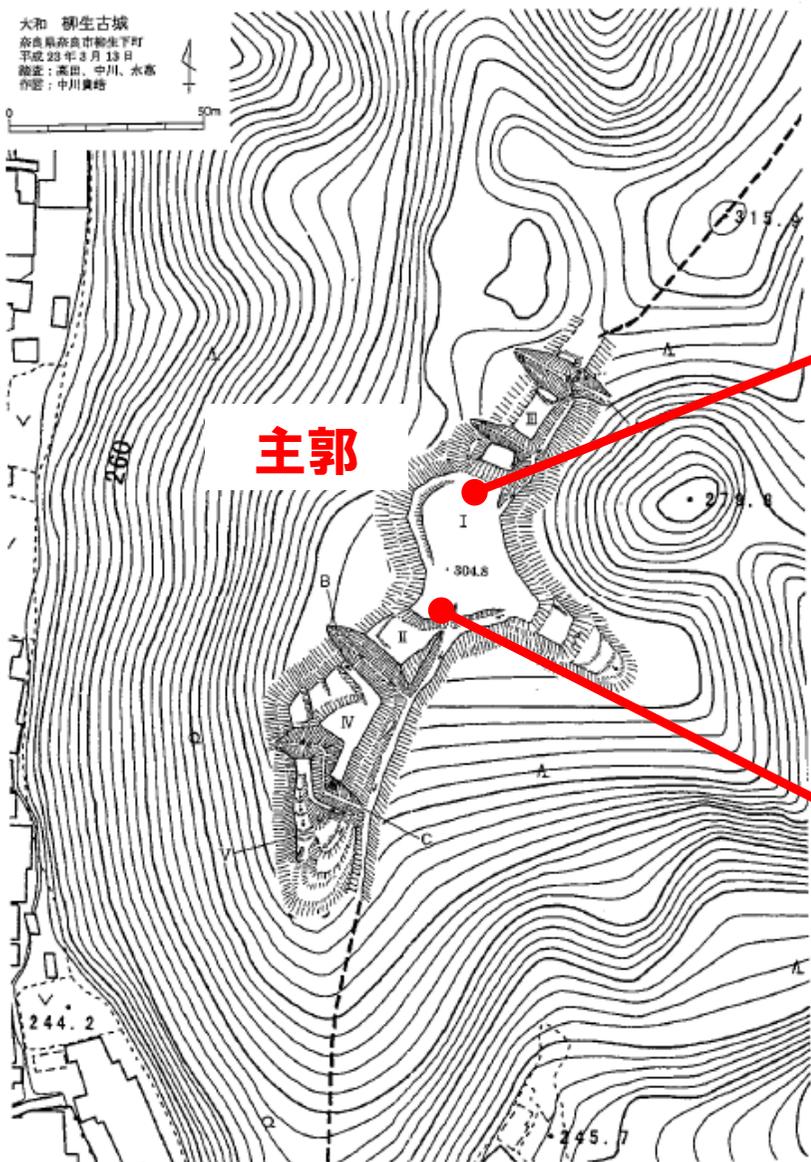
## ◆回答

問	4	1	物	2	酒屋や土倉は、高利貸しを行っていたため。
---	---	---	---	---	----------------------

# 9. 柳生古城(やぎゅうふるしろ)・剣塚



元弘の乱の際に柳生永珍が古城山において後醍醐天皇の糧道を確保しようとしたのが始まりであったとされています。古城跡主郭部分に剣塚があります。

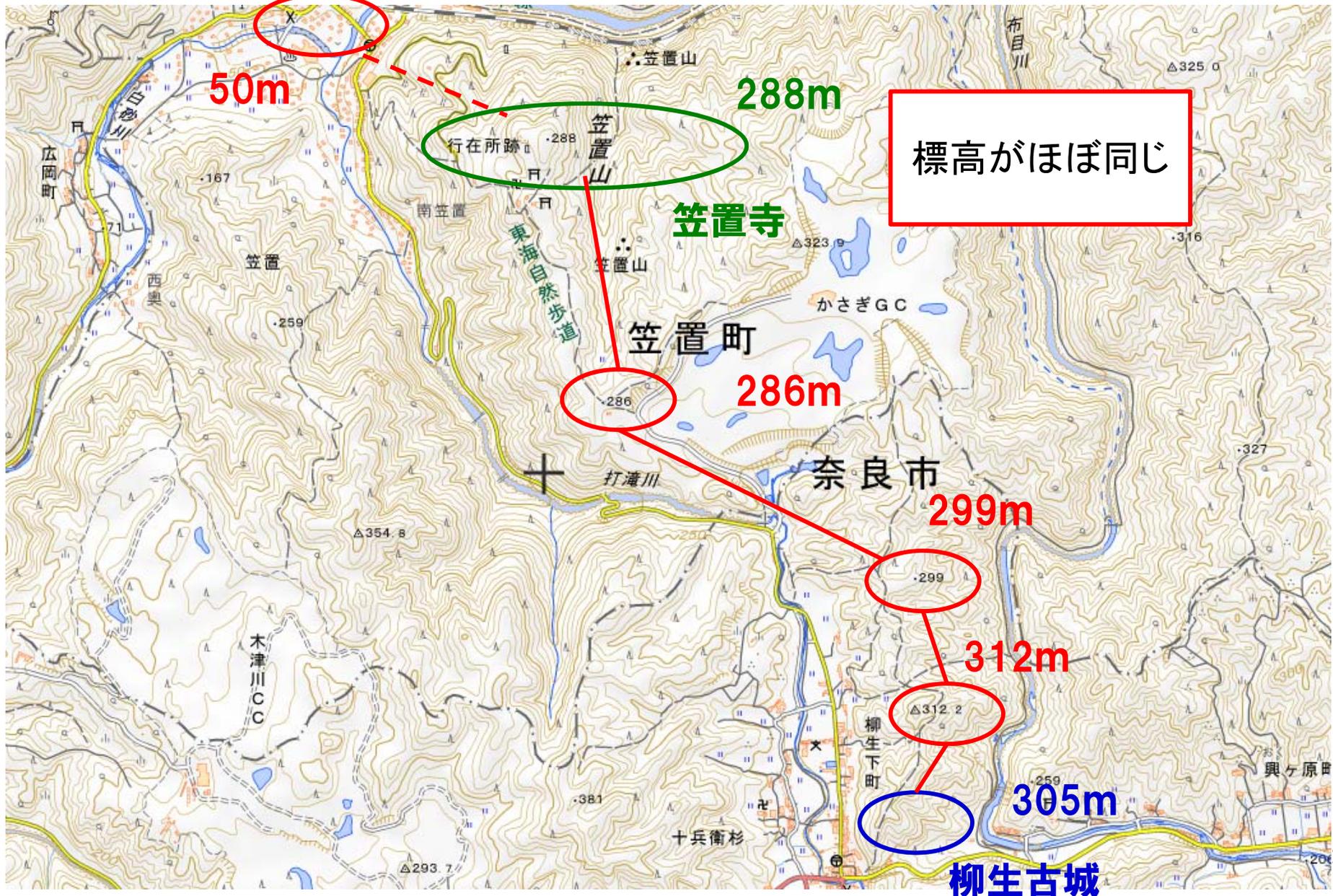


近畿の城郭

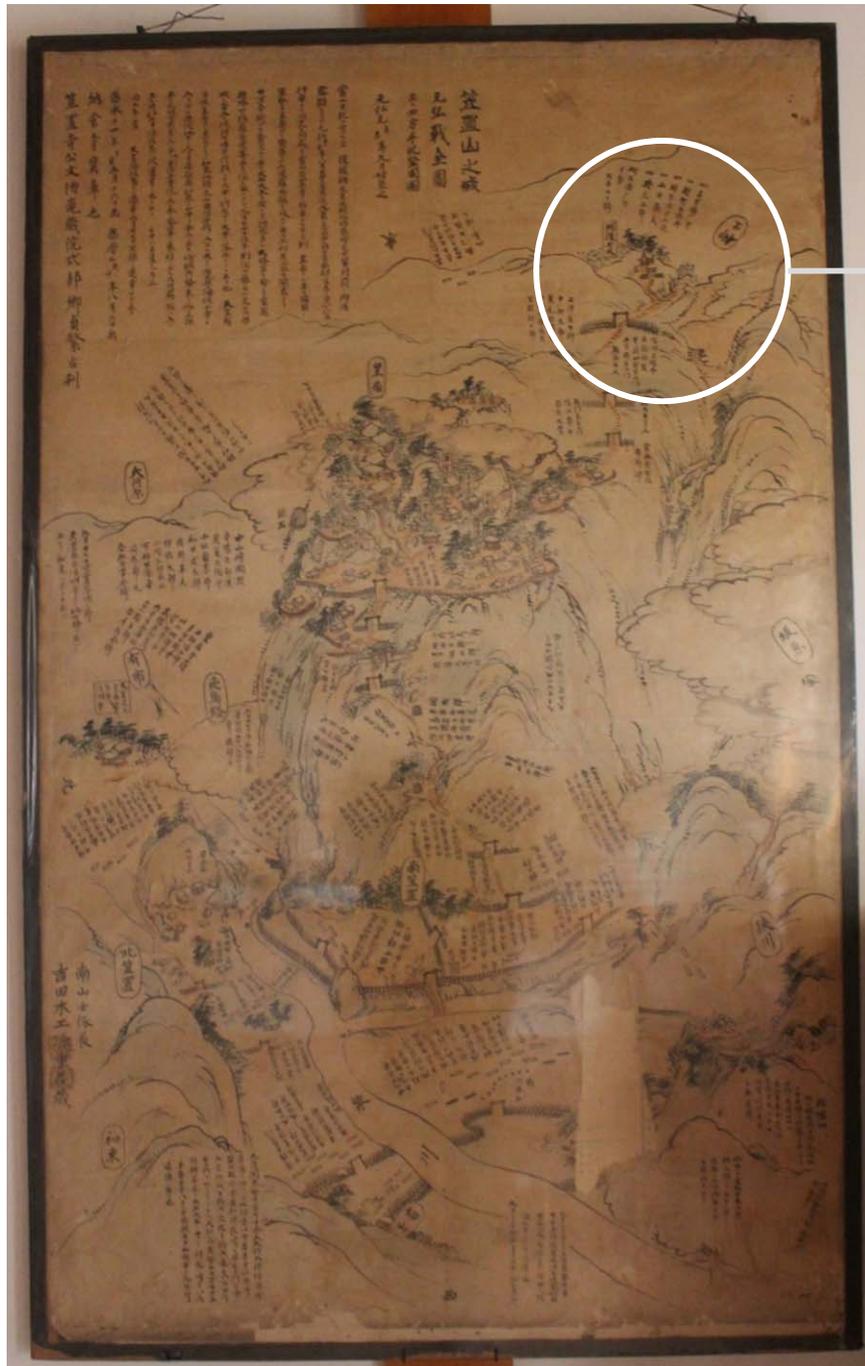
# 10. 笠置寺と柳生古城の標高比較



柳生と笠置寺の標高差はほとんどありません。古城山において後醍醐天皇の糧道を確保しようとしたのが始まりであったとされています。



# 11. 笠置山上之城 元弘戦全図 ～永珍が後方支援～



柳生の表記手前には「阿対弁天」という文字がある

芳徳禅寺展示

## 12. 阿対の石仏

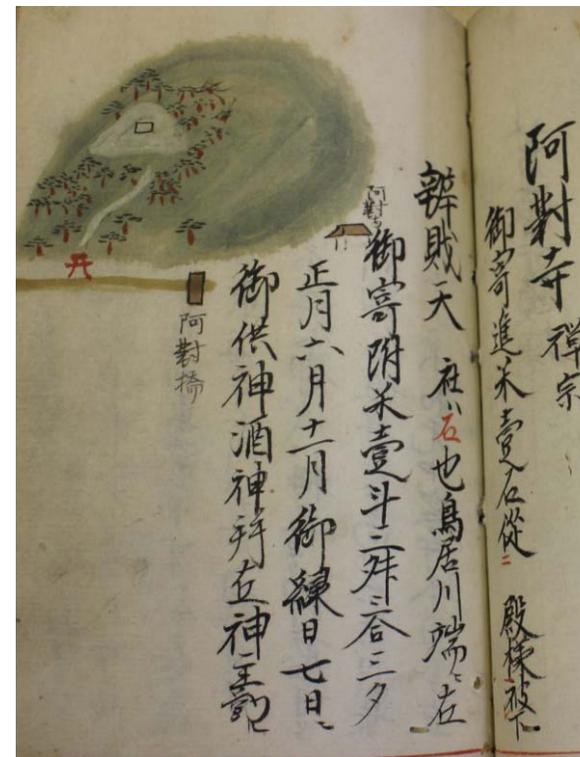


右側の阿弥陀如来は、流行病よけの願いを聞いてくれるといわれており、多くの人たちに信仰されています。鎌倉末期の作と言われています。向かって左側の地藏菩薩は、豆腐をお供えすると、子供が授かると言われており、授かったときは、一千個の数珠を作り、お礼詣りをします。

地藏の近くには、数珠だけでなく、数珠の代わりとして千羽鶴も供えられています。室町時代の追彫と考えられ、右肩に「源祐」の刻銘があります。



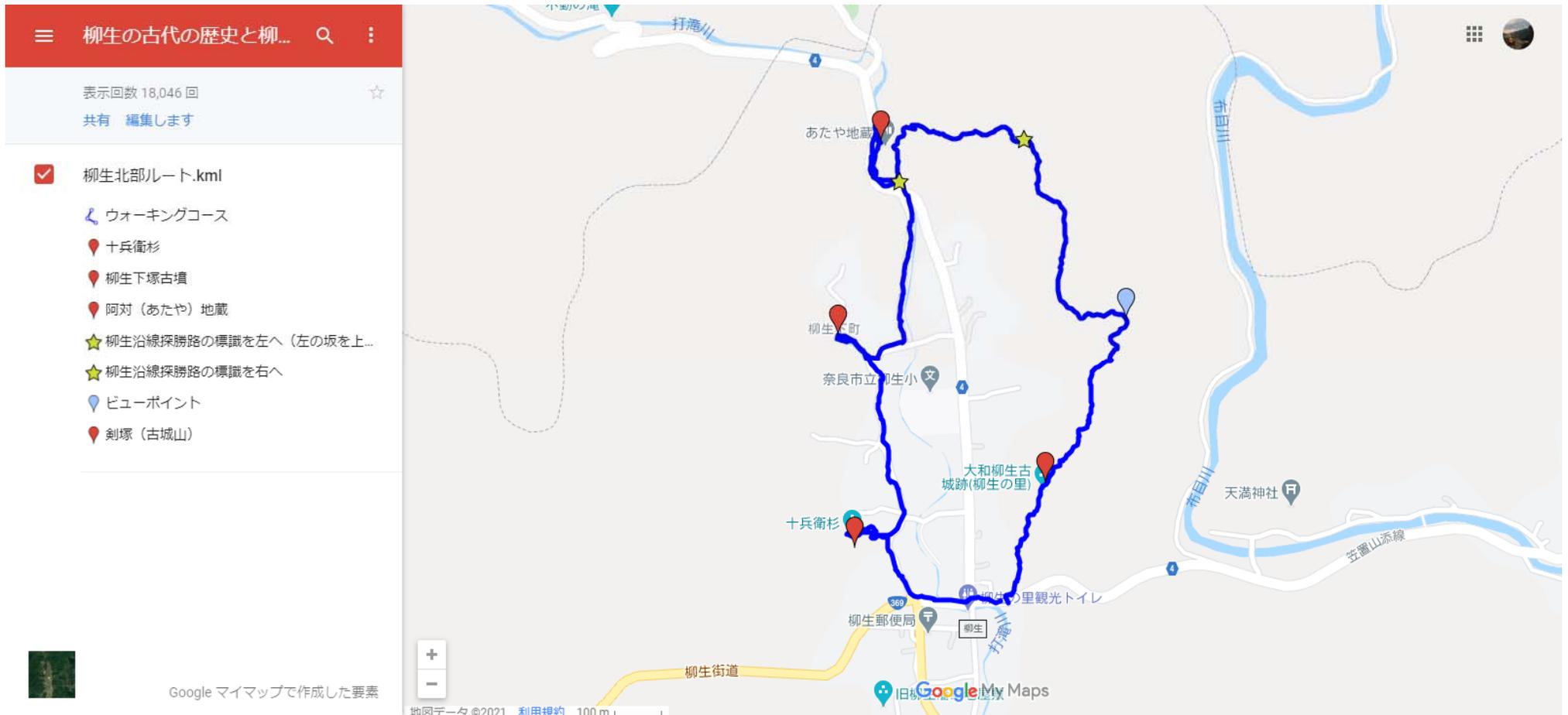
現在は阿対石仏のみ残されているが  
阿対寺、弁財天があった



柳生雑記

# 13. 柳生の古代の歴史と殿さま街道を巡るコース(約3.6km)

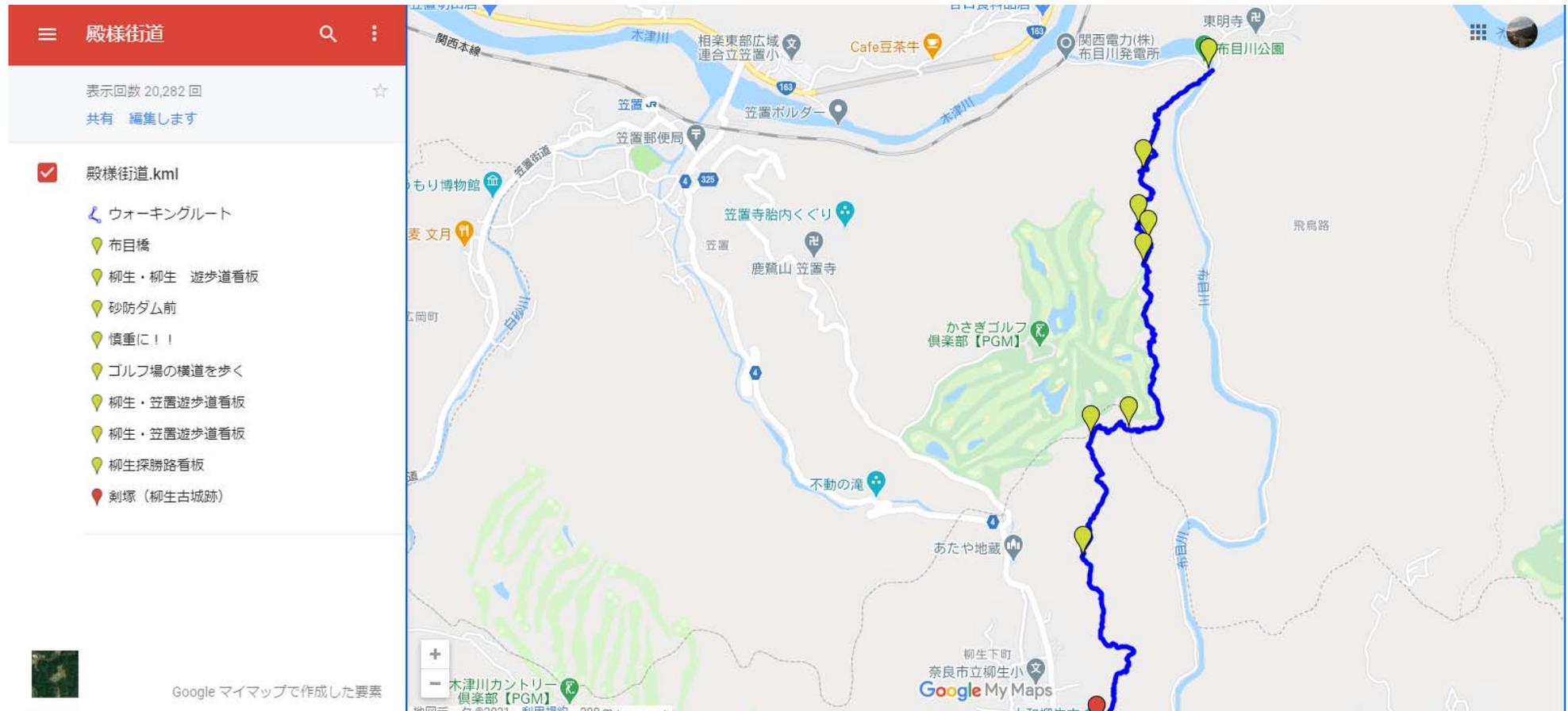
柳生下町を中心とした各スポットを回るコースです。



# 14. 様街道を行くコース(笠置～布目橋～柳生)※険路コース



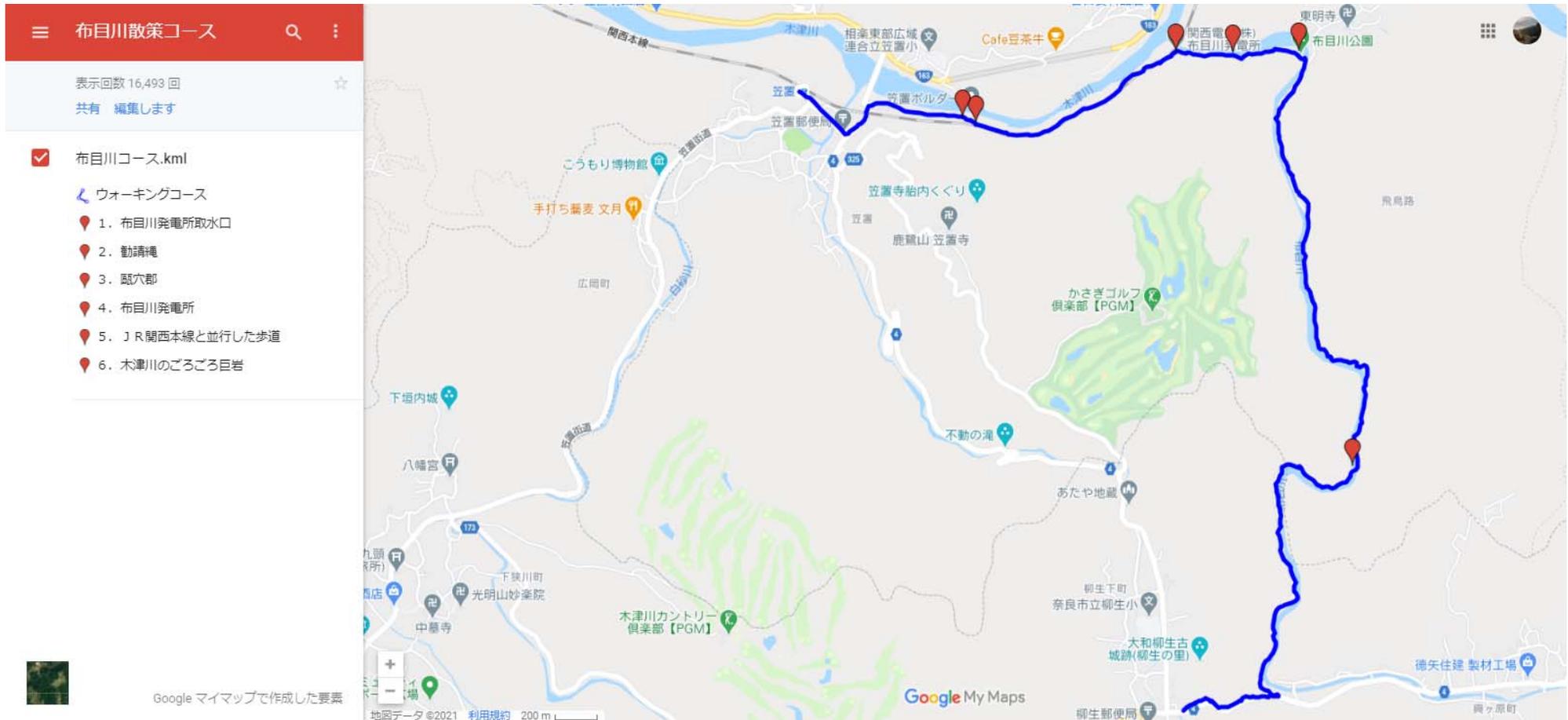
柳生～飛鳥路(布目橋)のルートは、柳生の殿様も歩いたルートであったことから“殿様街道”と呼ばれています。現在は整備されておらず険路となっています。



# 15. 笠置ー柳生 布目川散策コース(約7km)



柳生から布目川沿いに飛鳥路へ回るルート。舗装道路なので歩きやすいです。



# 16. 柳生街道



柳生街道は奈良県奈良市を走る街道。奈良町から春日山と高円山の谷を越え、忍辱山を経て柳生へ繋がる。柳生より先は笠置や月ヶ瀬・上野方面へ通じた。鎌倉時代初期には存在したとする説や滝坂の道の石畳は江戸時代の奈良奉行が命じて敷かせたとも、それ以前からあったとも伝っている。

## 柳生街道

柳生の歴史を辿る、3つのコース

**COURSE-01**  
滝坂の道  
Takiaka-no-michi Path  
コース難易度 ★★  
12km

**COURSE-02**  
剣豪の道  
Kenpo-no-michi Path  
コース難易度 ★★★  
9km

**COURSE-03**  
柳生・笠置の道  
Yagyū-Kasagi-no-michi Path  
コース難易度 ★  
11km

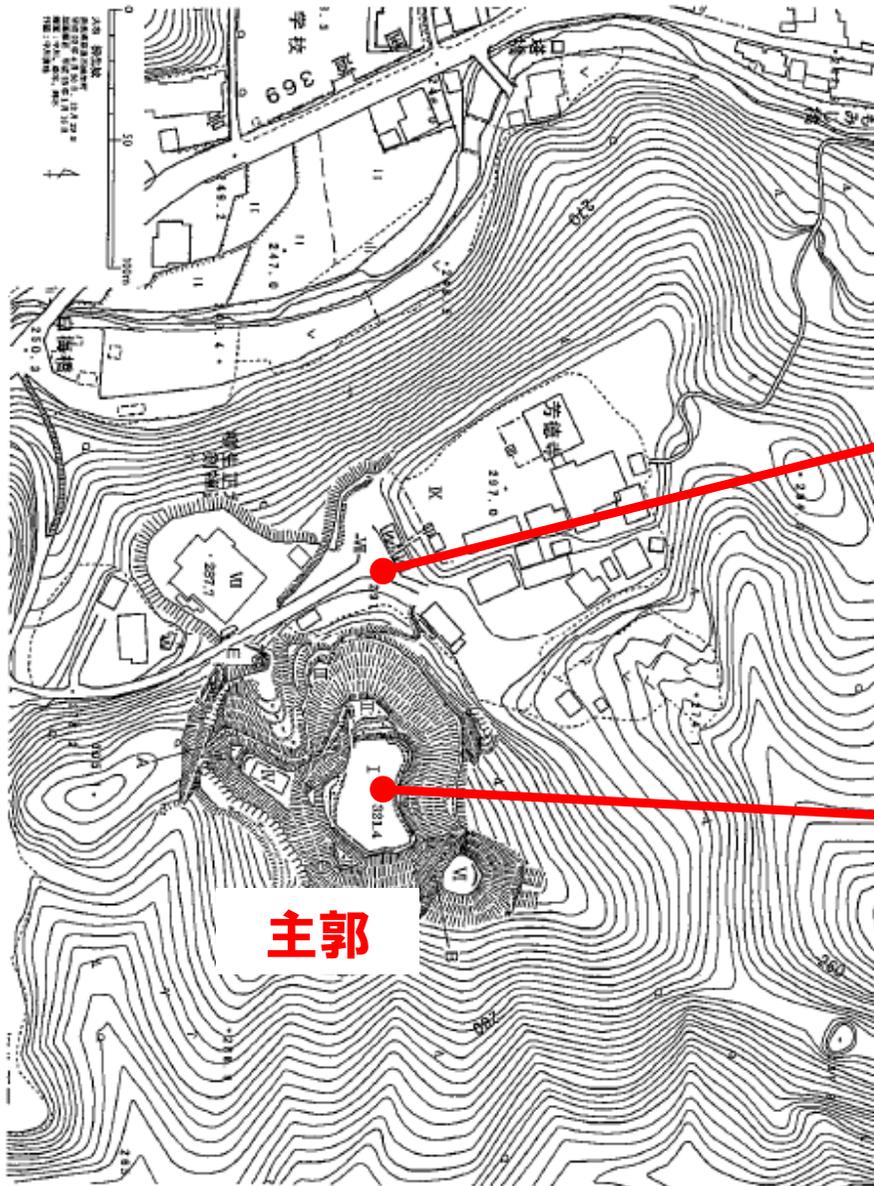
奈良市市街地からスタートした場合に、柳生街道の前半にあたるのが滝坂の道。不揃いの石を敷き詰めた石畳が続いていますが、これは柳生家が将軍家の御用宿願となり大名となった頃に街道の行き来を良くしようと改修工事が行われた名残だと考えられています。滝坂の道には山岳仏教の信仰の對象となっていた石仏がたくさん残されており、今も昔も柳生街道を行き交う人々を静かに見守っています。清と澄んだ空気を感じ、川のせせらぎや木々のさわめきを聞きながら歩むことができます。この道は、いつ訪れても涼しさを満喫してくれる場所でもあります。石畳の道を抜けると、江戸時代から続く茶店「神の茶屋」で一休みすることもでき、さらに進むと平安時代に造られた円成寺の美しい浄土庭園へと続きます。

円成寺から朝聖の里柳生へ続くコースです。神秘的な雰囲気を感じる滝坂の道とは違ってかわり、なつかしい雰囲気を覚える里の中を通り、急坂「かえりばさ時」へと続きます。眼下一面に広がる田園風景が特別におすすめのポイントです。また、柳生の城主但馬守赤松（たじまのかみあかねのり）とその妻おふじの出会いにまつわる逸話が残る「おふじの井戸」など柳生家に関する旧跡もコースの中に登場します。南明寺、山口神社など歴史や人々の信仰と感謝の念を感じることができスポットも多数あります。春には田植えが終わった田んぼがまるで草原のように広がり、春の空気を存分に感じることができます。秋は、稲穂が金色に輝き円成寺周辺の紅葉も美しく、さまざまな景色を見ることができ季節の調は、四季を通して楽しめるコースです。

信託の多く残る「十兵衛杉」や「阿対（あたい）の石仏」を見学できる柳生のバス停から、笠置の歴史を感じることができるJR笠置駅へ向かうコースです。柳生のバス停から進むと、刃り一面のどかな田園風景。そびえ立つ十兵衛杉を越え、遊覧橋を渡って阿対の石仏を拝見。穏やかな響りが続きます。国の史跡・名勝に指定されているこの地区の笠置山の山頂には笠置寺があり、山門をくぐれば本尊弥勒菩薩仏（みろくさま）に代表される名所があるあなたを出迎えます。じっくりと笠置寺を満喫した後は、緑の中を下り「笠置山笠置山」のアーチまで歩みを進めると出口です。花こう岩で造られた巨岩・奇石の数々が今もお特異な景観を残すこのコースは、滝坂・剣豪の道より、川沿いを歩きながらのどかな風景を楽しむことができます。自分のペースでじっくり楽しみたい方におすすめです。

01 | TAGU KAIDO

# 17. 柳生城 柳生家蔵(宗蔵の父)が築城



近畿の城郭

# 18. 一刀石



戸岩谷にある約7m四方ほどの巨石で中央から2つに割れています。柳生石舟斎宗巖が修行中にこの戸岩谷にわけ入ったところ天狗がいたので、その天狗を宗巖が一刀のもとに切り捨てたところ、巨石を2つに割っていたもので、これを後世「**一刀石**」と呼ぶようになったと伝えられています。近年では、「鬼滅の刃」のシーンと似ていると話題になりました。



## 19. もみじ橋



芳徳寺の旧参道につながる朱塗の橋で、この近くに柳生石舟斎宗巖の家があったといわれています。



## 20. 柳生石舟斎宗嚴略歴



- 1543年 宗嚴(石舟斎)が筒井昭順の軍一万に攻められ軍門に下る
- 1563年 宗嚴(石舟斎)が上泉伊勢守に入門
- 1571年 宗嚴が上泉伊勢守より「柳生新陰流」の号を許される
- 1590年 太閤の文禄検地で隠田発覚、二千石の領地没収
- 1594年 5月 石舟斎、宗矩父子徳川家康の前で「無刀取り」を披露  
家康52歳・石舟斎・67歳・宗矩24歳

『天下人たる者の剣は「殺人剣」であってはならぬ。三尺の剣をもって天下の民を活かし乱を平らげるこれ「活人剣」すなわち、柳生新陰流の無刀取りと申す。』

これこそが、家康が待望した「平時の剣」乱世を断ち切る兵法。

家康は、即刻石舟斎に入門。宗矩を二百石で召し抱える

- 1600年 関ヶ原の戦いに参戦。  
父 石舟斎は西の情報、子 宗矩は東の情報収集
- 1606年 石舟斎死去

## 21. 柳生宗矩



三百諸侯を震撼させた「剣と智謀」。



芳徳禅寺本堂 柳生宗矩木座像



## 22. 柳生宗矩の直門の弟子たち

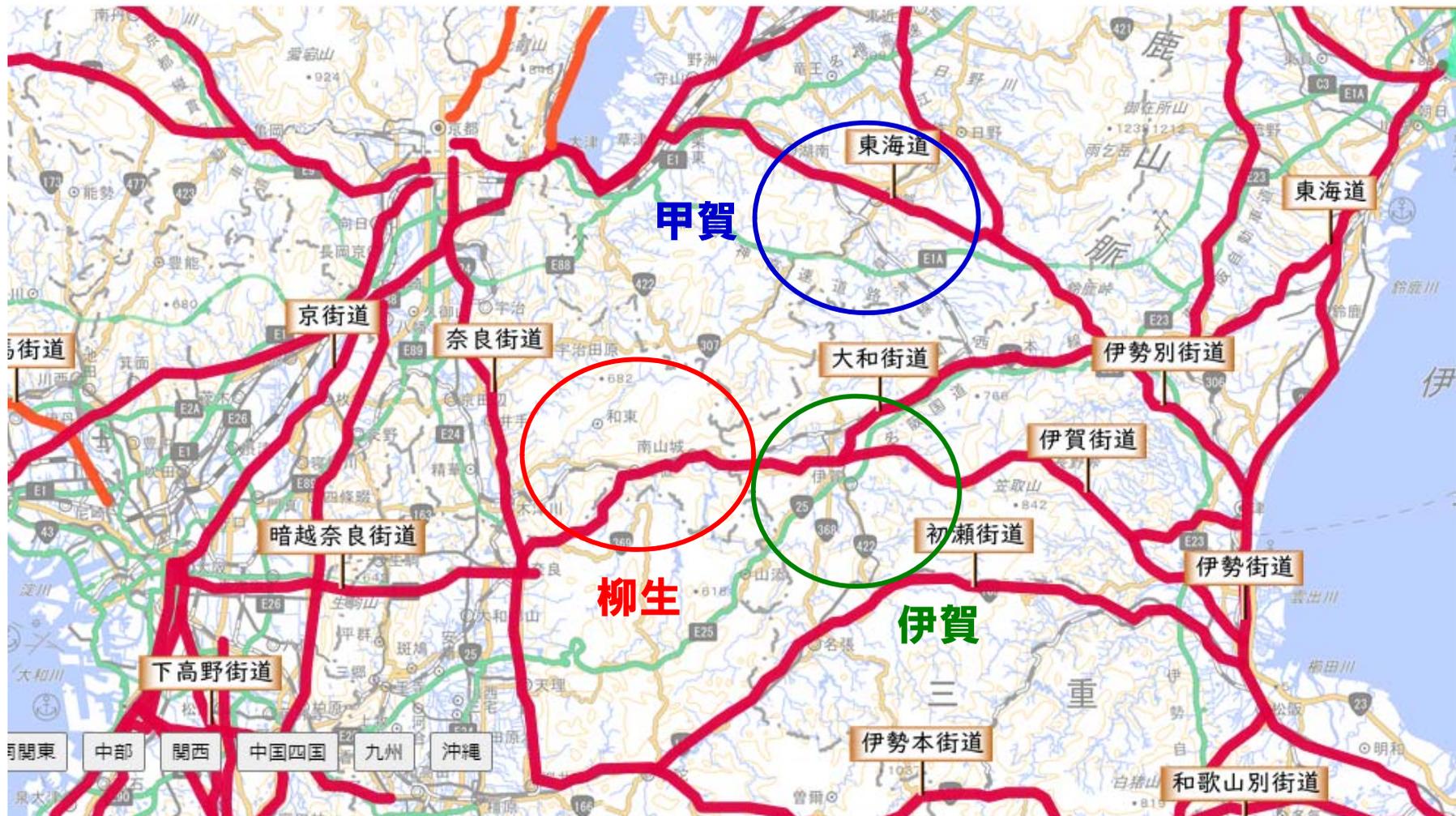
全国の藩に弟子を送りこみ、幕府への不穏な動きがないか情報収集を行った

柳生宗矩直門の弟子たち																							
(藩名)																							
伊勢	越前	肥後	奥州	下総	大和	山城	筑後	同	上野	越後	長門	奥州	紀伊	同	阿波	泉州	加賀	伊予	同	同	肥前	筑後	
津	福井	熊本	会津	古河	高取	淀	柳川		厩橋	高田	萩	仙台	歌山		徳島	和田	金沢	松山			佐賀	久留米	
(藤堂)	(松平)	(細川)	(保科)	(土井)	(植村)	(稲葉)	(立花)		(酒井)	(戸田)	(毛利)	(伊達)	(徳川)		(蜂須賀)	(岡部)	(前田)	(松平)			(鍋島)	(有馬)	
柳生源太夫	津田武太夫	出淵平兵衛	田中甚兵衛	小瀬源内	萩原猶左衛門	西江織部	野殿貞右衛門	立花民部少輔直次	戸塚治太夫	辻茂右衛門	荘田喜左衛門	馬木家六	狭川新三郎	木村助九郎	小夫浅右衛門	佐々木茂左衛門	多羅尾又兵衛	笠間九兵衛	松下源太夫	松下八郎右衛門	松下小源太	鍋島紀伊守元茂	山形八郎右衛門

# 23. 隠れ里「柳生」の立地



交通と情報収集の要衝の地。「甲賀・伊賀・柳生」の位置。



関西の旧街道と柳生・伊賀・甲賀の位置

## 24. 芳徳禅寺



江戸初期(1638年)に柳生宗矩が父の菩提を弔うために、親交のあった沢庵和尚を開山として建立されました。本堂には本尊の阿弥陀如来を中心に、左右に柳生宗矩像や沢庵和尚像が安置されています。また、隣接する史料室には柳生に関する資料が展示されています。



## 25. 開祖 沢庵和尚 烈堂和尚



芳徳禅寺開祖の沢庵和尚。東海寺・沢庵漬で有名。  
柳生家唯一の和尚 烈堂和尚。子連れ狼の悪役(裏柳生)で有名。





沢庵は、柳生宗矩と若い頃より交流があり、教えを求める柳生に「**剣禅一如(けんぜんいちによ): 剣の道の究極の境地は禅に通じる無双無念と同一である**」の境地を説いたそうです。

この境地を記した『**不動智神妙録(ふどうちしんみょうろく)**』は、禅の教えを持って、武道の極意を説いた最初の書物であり、武術から武道へ昇華に大きく貢献していました。原本は存在せず、宗矩に与えられた書も、手紙か本か詳しい形式は判明していません。

・「心こそ 心迷わす 心なれ 心に心 心ゆるすな」

(心こそが自分を迷わすモノだから、自分が心に思うこと、感じることに、また自分の心の動きに気を許すな)

宗矩は江戸幕府3代将軍・徳川家光のために将軍家兵法指南役・柳生宗矩が確立した柳生新陰流(江戸柳生)の兵法思想を記した武道書『**兵法家伝書**』を著しました。

・「兵法は人をきるとばかりおもふは、ひがごと也(なり)。人をきるにはあらず、悪をころす也。一人の悪をころして、万人をいかすはかりごと也。」

「殺人剣」から「活人剣」へ

## 26. 旧柳生藩陣屋跡



寛永14年(1642年)年に柳生宗矩が3年をかけて建てた柳生藩の陣屋跡です。「柳生藩日記」によると、その坪数は1374坪(454m<sup>2</sup>)表は竹の枝門であったと記されています。その後、宗冬に増築整備されましたが、延享4年(1747年)の火災により全焼し、仮建築のまま明治の廃藩により姿を消しました。昭和55年6月に史跡公園として整備されました。



# 参考：齒痛地蔵



大昔、柳生の隣村である大柳生阪原に才智に長け、田畑を多く所有し、その財力と才智で水路を開いた庄屋 齊藤甚蔵がいました。柳生藩主は彼の才能を恐れ、無実の罪をかぶせて処刑に処した際に、甚蔵は「三年の間に柳生を灰にする」と言って死にました。藩主はこれを恐れて毎夜不審番を警戒しましたが、三年後の最後の晩に、陣屋は火事となり灰になりました。藩主はおおいに恐れて、陣屋跡の自然石に供養の為に石仏を刻んだと伝えられています。



## 27. 柳生宗矩略歴



- 1594年 黒田長政の取り成しで石舟斎(宗巖)、宗矩父子 徳川家康の前で「無刀取り」を披露。柳生宗矩が仕官に(24歳)
- 1600年 関ヶ原の戦いに参戦。  
父 石舟斎は西の情報、子 宗矩は東の情報収集
- 1601年 宗矩、将軍秀忠の指南役任じられる
- 1605年 秀忠が二代将軍を就任。将軍家の剣法「柳生流」として、江戸柳生家を開く
- 1615年 千姫事件 二蓋笠は坂崎家の家紋 三千石
- 1621年 宗矩、三代将軍家光の指南役に任じられる
- 1629年 従五位下に叙任、但馬守に任官
- 1632年 宗矩総目付(大目付)に任じられる。『兵法家伝書』を著す
- 1638年 宗矩が、父石舟斎供養のため芳徳禅寺を創建。  
但馬守の友人沢庵禅師の開祖。宗矩とおふじの子供 柳生烈堂が初代住職に。京都大徳寺派の禅寺。
- 1640年 宗矩大和国柳生藩
- 1646年 宗矩江戸で死去

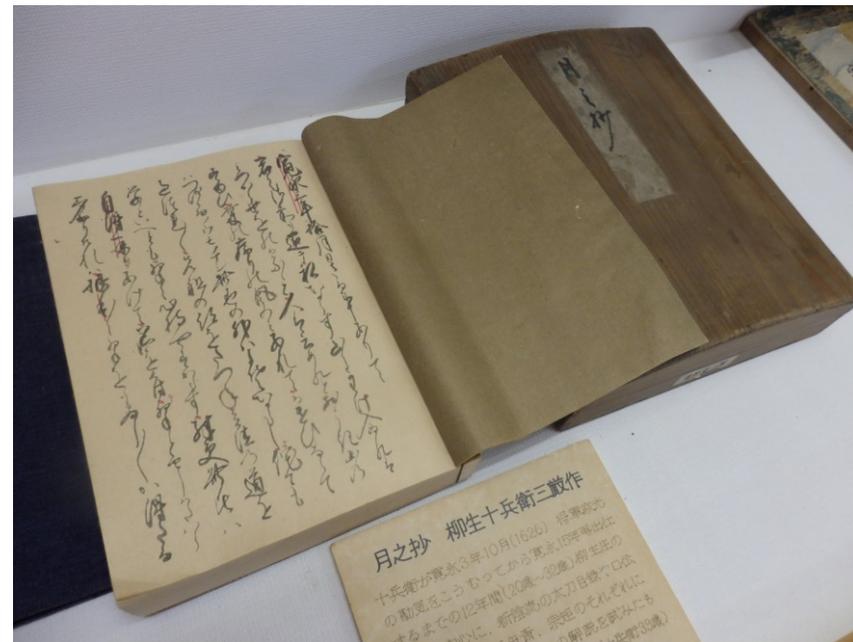
## 28. 十兵衛杉と月の抄



**十兵衛杉**:柳生十兵衛三厳が諸国漫遊に旅立つ前、先祖の墓地に植えたものだとされています。樹齢は350年ほどになりますが、昭和48年に二度の落雷により、枯れてしまい、現在は2代目が横で大きくなっています。



**月の抄**:十兵衛が祖父石舟斎、父宗矩より受けた教えを柳生家秘伝書として書きとめ、その精粹ともいべきものが月の抄である。この中に柳生流の秘伝秘剣がことごとくしるされている。



# 参考：十兵衛杉と中宮寺周辺



山号は月吹山、真言宗。現在は、柳生下町の公民館を兼ねた会所寺となつていますが、柳生宗矩が芳徳寺を建立するまで柳生家の菩提寺でした。  
柳生雑記にも「宗厳公」「宗矩公」「三厳公」「友矩公」と中宮寺に御墓があった記載があります。



## 29. 正木坂剣禅道場



芳徳寺のすぐ下には柳生十兵衛が延べ約一万人ともいわれる弟子を鍛えたと伝えられる正木坂道場の名を受け継ぐ剣道場があります。ぐ柳生新陰流の精神「剣禅一如」に通じる剣道と座禅の道場で、昭和40年、当時の住職・橋本定芳氏の尽力で建立されました。もとは興福寺別当一乗条院にあった奈良地方裁判所の屋根部分と柱を移築し、正面入口は京都所司代の玄関口を移設し新調された道場です。



## 30. 柳生十兵衛 略歴



- 1607年 宗矩の長男として生まれる
- 1619年 13歳で三代将軍家光の世話役になる
- 1621年 宗矩が家光の兵法指南役になる。家光の稽古約を務める
- 1626年 家光の怒りを買い、謹慎処分を命じられる
- 1626年～1637年 柳生に戻り、剣術の研究と修行に打ち込む
- 1637年 江戸に戻り、宗矩から剣術指南を受ける
- 1638年 家光に仕え、江戸城御書院番(将軍直属の親衛隊)任命
- 1642年 「月の抄」を表す
- 1646年 宗矩が亡くなり、8300石の領土と家督を相続する
- 1650年 大河原村弓ヶ淵にて急死 44歳

# 31. 柳生家の領地(柳生宗冬)



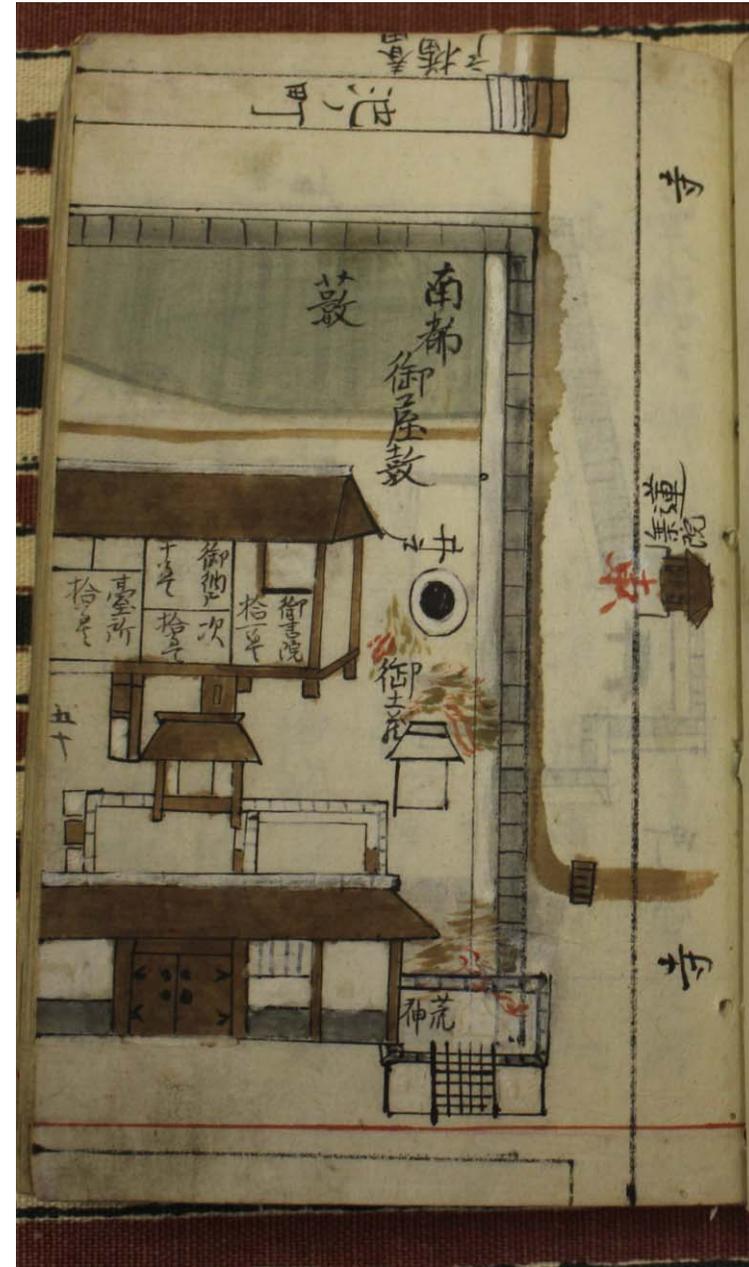
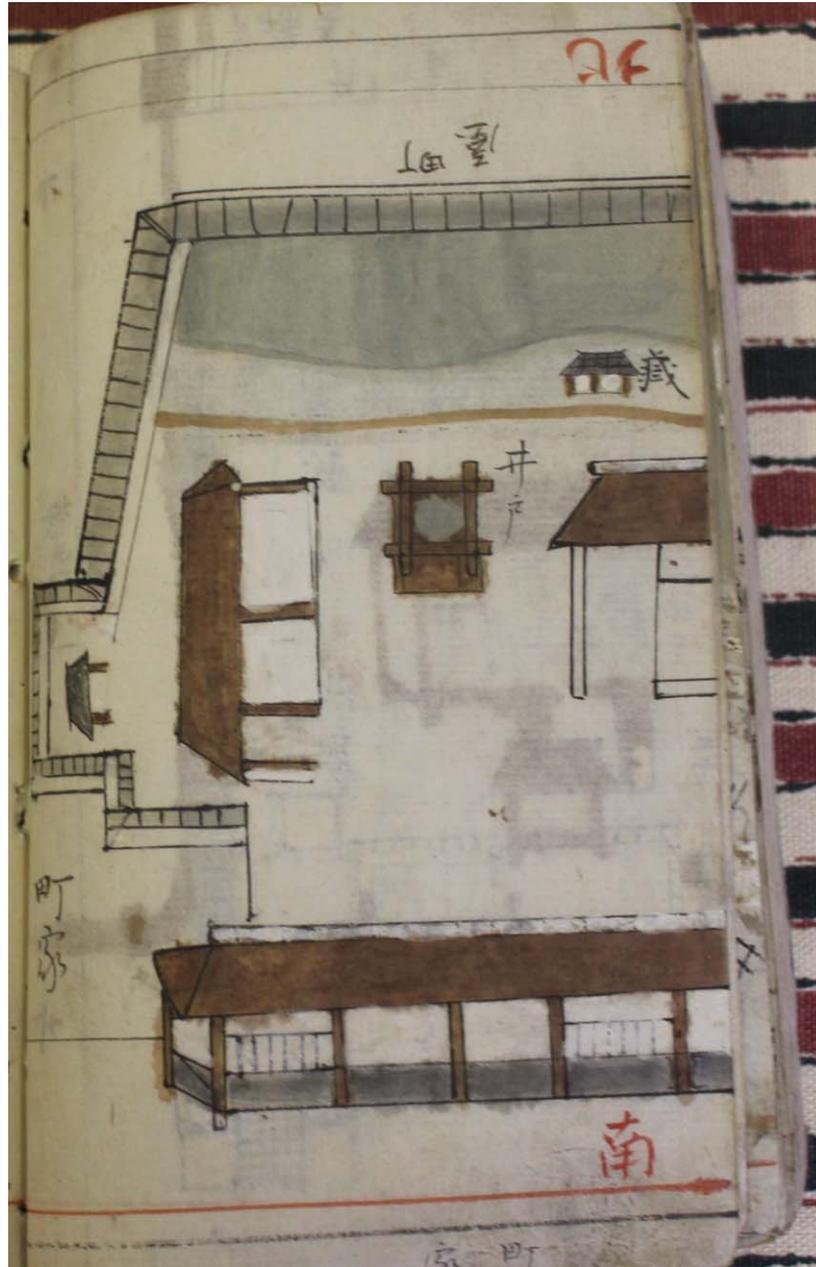
猿沢の池近くに「旧奈良市役所(現ならまちセンター:奈良市東林寺町)」があります。この場所は「旧柳生藩南都屋敷」があった所で、柳生石舟斎宗巖から四代目の柳生宗冬の代に建設されました。柳生家の領地は、柳生近辺の山間部より、むしろ奈良市の南方の三ヶ村、天理市北部の十二ヶ村と、平地部が多かったので、その連絡場所が必要でした。当時、興福寺と春日社家との間に争論があった時、宗冬が仲裁を頼まれてうまくまとめたご縁で、猿沢池の南方にあった光林院という塔頭寺院が無住になっていたのを譲り受け建てたものだと言われています。



# 32. 旧柳生藩南都屋敷



# 33. 旧柳生藩南都屋敷図



## 34. 柳生八坂神社



もと四之宮大明神と呼ばれ、奈良春日大社の第四殿比売神社を祀っていましたが、承応3年(1654年)柳生宗冬が大保町にある八坂神社の祭神素戔鳴尊(すさのおのみこと)の分霊を勧請して社殿を造営し、八坂神社と改めたものです。境内の拝殿は天之石立神社の能舞台を移したものです。



# 35. 摩利支天



柳生十兵衛の弟、宗冬は、柳生に柳生八坂神社を造成し、石の鳥居を寄進してその横の丘に武道の守り神である摩利支天を祀りました。今は、祠は無いのですが、摩利支天の石のレリーフを2009年に復元しています。復元のイベントには千葉真一さんが来られました。摩利支天山からは柳生の町並みが一望できます。



## 36. 柳生氏領地の変遷



- 1331年 後醍醐天皇方に組みし笠置山の戦いで敗れ北条氏に領地没収されるのち「建武の中興」で領地復活
- 1543年 筒井昭順の軍一万に攻められ軍門に下る。  
このとき石舟斎18歳 以後数々の試練を生き延びる
- 1590年 太閤の文禄検地で隠田発覚、**二千石**の領地没収  
この時、石舟斎63歳・宗矩20歳
- 1594年 石舟斎、家康の前で「無刀取り」を披露**二百石**で召し抱えられる。この時、宗矩24歳
- 1600年 関ヶ原の戦の功で文禄検地で没収の**二千石**回復
- 1601年 宗矩、将軍秀忠の指南役任じられる 加増**一千石**
- 1621年 宗矩、家光の指南役に任じられる
- 1623年 家光、第三代将軍に就く
- 1632年 宗矩、惣目付の職に就く、加増**3千石**
- 1636年 加増4千石、**一万石**の大名に列せられる
- 1640年 **一万二千五百石**に加増、宗矩70歳
- 1646年 宗矩死す 76歳

## 37. 旧柳生藩家老屋敷



柳生藩財政の立て直しをした家老小山田主鈴木の屋敷で石垣に天保12年(1841年)尾張石工が築いたと記されています。1848年上棟。昭和31年に人の手に渡りましたが、昭和39年作家山岡壮八氏の所有となり、昭和46年放映のNHK大河ドラマ「春の坂道」もここで構想が練られました。昭和55年山岡壮八氏の遺志により遺族山岡賢二氏夫妻から奈良市へ寄贈されました。奈良市は、昭和56年これを修復し主屋の一部に資料を展示、一般に公開しました。現在ここに柳生観光協会があります。



小山田主鈴木像

## 最後に……

---

江戸時代の260年間を支え、日本の“武士道”思想の  
原点となった。「柳生家の家訓」

- ・小才は、縁に会って縁に気づかず。
- ・中才は、縁に気づいて縁を生かさず。
- ・大才は、袖振り合う縁をも生かす。